

自然との共生について（回答者 367 人）

【調査の目的】

県では、人と自然が共生する社会（自然共生社会）（※1）づくりを進めています。そこで、行政だけではなく、県民の皆さんや、事業者、NPO・ボランティア等の多様な主体によって生物多様性（※2）の保全と持続可能な利用に関する施策を推進するため、令和4年3月に「福岡県生物多様性戦略 2022-2026」を策定しました。つきましては、県民の皆さんに、県の生物多様性保全の取組がどこまで浸透しているか、また、生物多様性保全についての考え方等をお聴きし、戦略推進の参考資料とさせていただきます。

※1 人と自然が共生する社会（自然共生社会）とは

人と自然（生きもの）が共に生き、自然からの恵みを持続的に受け続けることができる社会

※2 生物多様性とは

私たちの住む世界には、森林、草原、川、海など多様な自然があり、その中で、哺乳類、鳥、昆虫、魚など多種多様な生きものが、「食べる－食べられる」の関係をはじめ、様々な「つながり」を持って生きている状態

（環境部自然環境課）

問 1

生物多様性の認知度

項目	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	合計	割合
内容をよく知っている	2	11	5	5	9	12	4	48	13.1%
内容を多少知っている	5	15	23	34	20	31	17	145	39.5%
言葉を聞いたことがある (が内容は知らない)	4	11	23	24	20	26	10	118	32.1%
全く知らない	1	3	9	15	18	8	2	56	15.3%

＜直近5年間の福岡県における生物多様性の認知度の推移＞ ※R4～6は回答項目が異なる

項目	2022 (R4) 年度		2023 (R5) 年度		2024 (R6) 年度		2025 (R7) 年度		2026 (R8) 年度	
	人	割合	人	割合	人	割合	人	割合	人	割合
① 内容をよく知っている	43	11.8%	22	5.9%	37	10.2%	68	18.4%	48	13.1%
② 内容を多少 (R6まで: ある程度) 知っている	86	23.6%	93	24.9%	75	20.7%	150	40.7%	145	39.5%
③ 言葉を聞いたことがある (が内容は知らない) (R4-6は項目を変更)							89	24.1%	118	32.1%
③ 言葉を聞いたことがあり、内容をイメージできる	106	29.0%	122	32.7%	107	29.6%				
④ 言葉を聞いたことはあるが、内容をイメージできない	65	17.8%	73	19.6%	69	19.1%				
⑤ 全く知らない	65	17.8%	63	16.9%	74	20.4%	62	16.8%	56	15.3%
合計	365	100.0%	373	100.0%	362	100.0%	369	100.0%	367	100.0%

＜参考＞

県政モニターアンケートによる生物多様性認知度の推移 (H23 は生物多様性戦略策定時の数値)

調査年度	認知度 合計	(内訳)	
		①	②
平成23年	33.0%	7.5%	25.5%
平成26年	39.3%	6.2%	33.1%
平成27年	43.4%	11.5%	31.9%
平成28年	39.5%	11.8%	27.7%
平成29年	38.1%	11.2%	26.9%
平成30年	32.0%	9.9%	22.1%
令和元年	37.5%	9.7%	27.8%
令和2年	39.0%	10.1%	28.9%
令和3年	37.0%	8.1%	28.9%
令和4年	35.4%	11.8%	23.6%
令和5年	30.8%	5.9%	24.9%
令和6年	30.9%	10.2%	20.7%
令和7年	59.1%	18.4%	40.7%
令和8年	52.6%	13.1%	39.5%

問2

生物多様性に配慮した行動として行っていること（3つまで回答可）

項目	件数	割合
旬のもの、地元のものを選んで購入する	216	58.9%
ゴミの分別や地域のゴミ拾いに参加するなど、ゴミ対策に取り組む	166	45.2%
節電やアイドリングストップなど地球温暖化対策に取り組む	147	40.1%
生きものを最後まで責任を持って育てる	121	33.0%
身近な生きものを観察したり、外に出て自然とふれあう	79	21.5%
生物多様性や環境に配慮している企業の商品やサービスを優先的に選ぶ	46	12.5%
エコツアー（ガイドによる自然体験）に参加する	35	9.5%
生物多様性に関わる観察・調査・保全・再生などの活動に参加する	33	9.0%
自然や生きものについて、家族や友人と話し合う	30	8.2%
特に行いたいとは思わない	5	1.4%
その他	3	0.8%

<特に行いたいと思わないを選んだ理由（抜粋）>

- ・現在は物価高や医療費などの負担が大きく、日々の生活を維持することを優先しているため、生物多様性を意識した行動に取り組む余裕がありません。環境に配慮することは重要だと思いますが、多くの県民が無理なく実践できるよう経済的負担を伴わない取り組みを進めてほしいと思います。
- ・何となく理解はしていると思うが具体的な行動はできていない。

<その他の回答（抜粋）>

- ・里山管理のボランティア活動

問3

自然共生社会の実現を目指していく上で、県が重点的に取り組むべきこと
(3つまで回答可)

項目	件数	割合
身近な野生生物（ホタル、ツバメなど）や里地里山といった身近な自然の保全	190	51.8%
野生鳥獣（シカ、イノシシなど）や外来生物による被害の防止	156	42.5%
環境に配慮した公共工事の推進	141	38.4%
環境教育の充実	111	30.2%
希少な野生動植物やその生息地の保全・保護	105	28.6%
生物多様性に関する各種情報の発信・提供	78	21.3%
生物多様性保全の取組を進めるための科学的なデータの集積や調査・研究	62	16.9%
生物多様性の保全に取り組む民間団体への支援	58	15.8%
その他	1	0.3%

<その他の回答>

- ・街路樹の根が歩道の舗装を破損しないようにする道路維持管理の徹底

問 4

生物多様性の保全等について、多様な主体による取組を推進するために、県はどのようなことを支援すればよいか

項目	件数	割合
誰でも取り組めるような生物多様性保全活動のためのリーフレットや動画を作成し、周知・配布する	114	31.1%
市町村やNPO・事業者等に対して生物多様性保全活動への助言や技術指導を行う	83	22.6%
多様な主体による活動に対して資金等を助成する	55	15.0%
多様な主体による活動に対して生物多様性に精通した人材を紹介・派遣する	48	13.1%
生物多様性に精通した人材を育成するための研修会を開催する	48	13.1%
その他	13	3.5%

＜その他の回答（抜粋）＞

- ・子供の教育(生活や道徳の授業等)
- ・教育的に教えてくれるイベントや場を持つことが大事だと思う
- ・ごく身近な自宅室内や庭、家庭菜園を入り口にすると意識が定着する様に思う
- ・広報活動が足りない。HPに頼りすぎている。
- ・野生鳥獣対策(害獣駆除)

問5

生物多様性について、県から発信してもらいたい情報（3つまで回答可）

項目	件数	割合
生物多様性に関する県の施策について（生物多様性戦略等）	116	31.6%
県内の希少種について	114	31.1%
生物多様性の啓発・学習資料（リーフレット、動画等）	110	30.0%
イベント情報	103	28.1%
県内の外来種について	95	25.9%
子ども向けの情報	92	25.1%
生物多様性に関する地図（生きものの分布図、保護区域等）	90	24.5%
県内の身近な生きものについて	89	24.3%
生物多様性教育に関する人材派遣制度	42	11.4%
自然観察・昆虫採集のコツや楽しみ方	41	11.2%
生物多様性に関する保全活動を行うNPO・企業等の情報	38	10.4%
その他	4	1.1%

＜その他の回答（抜粋）＞

・県が何をしたいのか

・誰に向けての発信・提供を明確にすることにより表現の仕方もおのずと変わってくるのではないのでしょうか。

問6

これまでの設問以外での御意見(計 78 人) (抜粋)

普及啓発・教育	28
開発・整備	6
野生生物関係	11
外来生物（特定外来生物含む）関係	1
環境問題	5
その他（上記に区分できないもの）	27
合計	78

<普及啓発・教育>

・もう取り組んでいるかもしれないが、小中高等学校等で講師を派遣して出前講座等を行ってみてはどうだろうか。もし成果が上がらないのであれば、その原因を追求して改善してほしい。

・生物多様性に関する地図は良いと思う。釣り情報やホテル情報、季節の花木の情報など人気のある分野ごとに特集を組んではどうか。1年で終わらせず、年々更新して充実させていくと、旅行を含めた人の移動も増え、活気づくと思います。

・子供たちへの教育や情報教育等を増やし家族で参加できる研修等が増えれば良いと思う。

<開発・整備>

・街路樹についてですが、県の木、市の木などをはじめ色々な樹木が街路樹や各住戸のシンボルツリーとして、大学や公園などでも植えられていますが、気になる樹木があっても木の名前の貼付が思いの外少ないので共生しようにも手段をまとめることができない。

・農業用排水路に魚道（魚が登れる坂）を標準整備をしたり、地域の農家と連携して冬の間も田んぼに水を張る「冬みず田んぼ」を広げます。これにより、米作りをしながら生きものの避難場所（シェルター）の確保

・身近な自然を大切に守り、子どもや孫の世代にも豊かな自然を残してほしいと思います。自然とふれあえる公園や緑地の整備も引き続き進めていただきたいと思います。

＜野生生物関係＞

- ・九州では熊はでないが他の野生動物と人間の共生について考えることがある。動物は好きだが畑を荒らされるなど被害も見られることから駆除も含めある一定の政策が必要ではないかと思う。
- ・福岡県としても人的被害が起こらないよう、未然に対策を練り、私たちのように田舎で暮らしている住民が被害に遭わず安心して暮らせるように万全の対策をお願いしたいと願っております。
- ・最近ではジビエ料理なども流行っているため、食肉としての流通網を、確保できれば食べてみたいと思います。

＜外来生物(特定外来生物含む)関係＞

- ・とにかく外来種削減強化して本来の自然保持につとめる。

＜環境問題＞

- ・10年前と比較しても川の流れは清らかになり悪臭が漂う川は見かけなくなりました。川岸の整備や川底の整備も進められている川も多く環境は良くなったといえますが、市町村単位に任せている節もあり、福岡市以外の河川ではいまだ自然のまま放置されている川もあります。海も以前に比べて海洋汚染の問題も常日頃から報じられるようではありませんが、玄海灘から流れ着くごみ問題はいまだあるようです。
- ・職場が和臼干潟に近いが、散乱し浮遊ごみが堆積いるのをよく見るのでちょっとでも改善したらいいと思う。
- ・ゴミのポイ捨てが問題ですね。ペットボトルや空き缶、タバコの吸い殻、お菓子の袋などなど、道端にたくさん落ちています。リサイクルできる物もたくさんあります。県民への教育が必要です。ポイ捨てされたゴミがこのままだとうる環境を破壊していくのが想像できる動画などを県が作成してください。先生方は忙しいので。幼稚園、小学校、中学校、高校、大学などの発達段階に応じたものをつくってください。定期的に子供の頃から意識づけさせていくことで、将来的にはポイ捨てできない大人に育てていきます。マナーの悪い社会人にも、職場での研修、テレビやラジオ、ネットなどで環境を守る正しい行動をとれるように啓発していきましょう。

＜その他＞

- ・北九州市でもネイチャーポジティブを推進しているが県ではワンヘルスを絡めた事業などが可能なのではと考える、検討されてはいかがでしょうか。
- ・自然環境を守るとはもちろん、子どもから高齢者まで自然と触れ合う機会を増やす取組を進めていただきたいです。自然と共生しながら、誰もが安心して暮らせる地域づくりを期待しています。
- ・里山などの自然保全も大事ですが、都市部での環境保全も同じように大切だと思います。都会でも緑や生き物を守るような活動を大事にしてほしいと思います。